

北区民まちづくり会議 大学・まちづくりの分野に係る部会 摘録

日 時：平成26年10月30日（木）午後6時30分から午後8時

場 所： 第4，第5会議室

【主な発言】

■地域活動と大学・大学生の関わりの現状と課題

○部会長

この部会では2番，6番，10番の施策領域が設定されている。まずは2と6を想定して，全体的な問題点の発言をお願いしたい。その後，項目別にまとめる方法で進めたい。

先日の会議で，区役所の目指すスローガンを「大人のまち・上質なまち」と聞いた。歴史，自然，文化，大学を抱えた北区が目指す言葉としては良いと思うが，現時点では，その具体像が見えない。

長く北区と関わっているが，自然豊かな地域から歴史的な地域まであり，そのあたりをよく考えられた言葉と思うが，実感できるためには実体として向かって行かなければならない。

本物，大人という言葉が北区らしく表現すると「品格がある」となるのではないか。

アンケートを見ると，前回と比べ全体として満足，まあ満足の数値が上がっている。政策的には良くなっているという評価だと思う。

地域，大学については良いが，北山は評価が難しく「分からない」が多いということは，目が行き届いていないということではないか。

○副区長

地域活動を見ると，満足の数値が上がっているが不満もある。底辺は広がったが，活動している人たちが行き詰っているのではないか。

○委員

アンケートは，地域の役員でない方や，一般の方をお願いしたので，生の声だ。「北山のこととは分からない」との声が多かった。

○委員

前回と今回で，町内会の加入率の推移は分からない。

地域活動に不満があるということは，町内会などの活動をやる人，声をかける人が減っている，活動はしているがしぼんできているということではないか。

学生の町内会加入率はゼロに等しい。町内に負担がかからないかたちで，なんとか学生が参加できる仕組みを考えられたらと思う。

市にもコミュニティ条例があるが，学生へのアプローチは止まっている。大学生にもぜひ参加してもらいたいが，残念ながら市としての施策がない。やはり難しいのだろうか。

京都のまち自体が学生のまち，とも言えると思う。学生に優しくできないだろうか。

○部会長

京都は市の規模も大きく，学生の数も多い。大学コンソーシアムができる前から関わっていたが，キャンパスプラザで，大学間での単位互換制度や市民も受講できる仕組みを作った。

英国では「まちがキャンパス」という発想があり、学生が「まち」でも暮らせる＝「暮らし」がある。

委員が言うように、北区の中で学生の「暮らし」がある仕組みを市に作ってほしい。学生時代に良い思い、経験をすれば、「生涯ここで暮らしたい」と思う人も増える。

かつてゼミ生同士が結婚し、北区内に住んでいたが、今は大津市内に住んでいる。ということは住みにくいということなのではないか。

学生がずっと住めるようになればいい、との思いは委員と同じだ。

大学がまち・地域の中へ出て学ぶ、というのは私のゼミでやっているスタンスだが、大学の組織として地域へ出ていける部署を創ったので、勉強だけでなく、祭りや高齢者等に関われる仕組みを作ってほしい。

学生に手伝ってほしい地域のニーズについて、年間スケジュールのようなものがあると、もう一步進むのではないだろうか。

○委員

学部だけのお話なのか。

○部会長

全学部である。学生も年間のスケジュールがあるので、祭りやイベントの年間スケジュールがあれば擦り合わせられる。

○委員

毎年祭りをやっているが、佛大、立命の学生に10人ずつ、ゼミの先生付きで来てもらっている。継続してはいるが、ゼミだけとの関わりである。

○部会長

ゼミだけでは続かないので、大学としての制度を創った。社会につながる、貢献できる部署（社会連携課）を創ったので、もう少し広がりを持てるのでは。

○委員

クラブ単位（放送部、応援団、落研）で商店街の取組に参加してもらっている。ゆるキャラや自転車タクシーのグループもあり、学生と直接のつながりである。今年の祭りでは200人くらいの参加があった。

○部会長

コミュニティ活動の良い例だ。

○まちづくりアドバイザー

学生に関わるようになったきっかけは。

○委員

ゆるキャラ、落語で学生に来てもらった。去年はゼミ生が抹茶を提供する居場所づくりの活動をしたいと来たが、うまくいかなかった。学生は、やりたいことはたくさんあるが、やり方を知らない人が多い。しかし、学生が来るのはいつでも歓迎する。

○委員

今のお話のように、がんばっている人がいるところは学生も参加している。どうやったら地域に入っていけるかを、我々が考えてあげるのではなく、課題として、学生に考えさせ解

決させたらどうか。

○委員

いざやるとなると、予算的に厳しい。学生はいろいろな思いは持っているが、実際にやる際にはクチもカネも出さないといけない。しかし、「これも経験だろう」と思って私も周囲も見守っている。

○委員

システムづくりにカネがかかったと思うが、活動はボランティアか。

○委員

そうである。モノ（システムづくりとサポート）にカネがかかる。

○委員

それらの活動が学区レベルまで広がっていけばいい。

○委員

東日本大震災の時も、学生の活動は目覚ましかった。活動をやりたい学生はたくさんいる。

○部会長

北区には4つの大学があり、地域とのつながりを持てる空間だと思う。地域活動は社会へ出るためのトレーニングだ。やはり地域ニーズの年間スケジュールがあるとよいのだが。

○委員

自転車タクシーでも、チラシを作ったまでは良いがポスティングの仕方を知らない。実際にやる時に現場を見ることで地域を知ることができる。学生には授業があるので、それを分かったうえで協力しないと、学生に無理が出る。

○事務局

部会長のお話のスケジュールについてのとりまとめは、今すぐ年間を通じてのスケジュールというのは難しい。

学生（ゼミ）と地域との関わりは、学区レベル・町内会レベルがあると思うが、町内会レベルは難しいと思う。

○副区長

4大学にこだわらず、北区在住の学生が地域活動にどうかかわっていくかを掘り起こす必要がある。

○委員

学生はドタキャンも多く、関わるならそれを前提で考えないといけない。

○副区長

田中委員の商店街のノウハウは重要だ。

○部会長

まさに社会へ出る前の良い経験だ。

○委員

地域は、例えば大学に部署があっても学生との関わり方を知らない。地域と大学をつなぐ機関があれば学生を活用する地域も増えると思うので、北区が窓口になってほしい。

○部会長

ゼミやボランティアの他に部活動（写真）もやっている。撮影会をやる、というので「北区でやって、区民に見てもらって、4大学のコンペをやれ」と言った。大学間でつながることも可能。住んでいるだけでも関わることはできる。北区にもお願いしたが、北区の作品展をやるのに四条や三条に行っているのが現状。北区にギャラリーを作してほしい。

○委員

紫野学区内には、そのような展示に適した場所がいくつかある。

○部会長

近くにあればぜひ使いたい。

○委員

町内会の加入世帯数は、昨年度 3108→今年度 3063（未加入世帯は 700 ほど）である。減少の原因は、町内会の役が回ってきて、その負担ができないために町内会そのものをやめる、というケースが多い。

○事務局

高齢になると町内会のお世話になる機会も増えると思うのだが。

○委員

その点を説明してもやめていかれる。

○事務局

やめる原因としては、他の町内でも同様の声を聞く。

○委員

一戸建てはほとんど加入している。

○委員

北区は東山区に次いで市内の空き家率が2位。前学区で防災・空き家マップを作ったらい。学生は喜んで協力すると思う。

○委員

紫野では実施している。きっかけは独居老人宅への戸別訪問で、現在は祭り、地藏盆、敬老会などで色々と学生にお願いしている。

○部会長

上手にやっておられるが、区全体へ広げるノウハウ・仕掛けはないか。

○委員

自分のところで精いっぱい。1回生が4回生になるまでは続くが、引き継いでくれる人が少ない。

○部会長

先輩・後輩のつながりで続いているのだろう。

○まちづくりアドバイザー

学生のやってみたいこと、地域のやってほしいことをどう関連付けるか。また、これらに、高齢者や子育て世代など、住んでいる人をどう巻き込むかが課題ではないか。

○副区長

<添付資料に基づき>

人口動態を見ると、15歳～64歳の、一番活動してもらえる世代がどんどん減っていく中、北区には大学生が4万人も居る。これを活用しない手はない。

この部会のテーマとなっている「北区基本計画～はつらつ北区プラン～」の施策番号2「区民主体で取り組む地域活動の創造」、6「大学のまちが活かされるまちの創造」、10「自然と調和した住み良い北山三学区の創造」について言うと、10はどこと組み合わせてもはまりにくい、2はどうやって学生を取り込むか、6はどうやって地域・住民に入っていくか、と考えると、これらは相互交流ができると思う。4大学にひと肌脱いでいただいて、地域活動を単位化してはどうか。

○委員

良いと思う。

○委員

学生マンションの学生は、町内会に関心がない。国勢調査のときも苦労した。

○部会長

下宿生＝住民がどうやったら地域に関われるか。ひとつの問題として、ごみ問題をやったことがある。自治体視察に行った際、職員が市民にごみの出し方をレクチャーしていた。「学生は北区民としてこう生活してほしい」というようなレクチャーをしてほしい。

○委員

学生向けの、町内会加入の勧誘ビラのようなものがない。事業者も町内会をもっと利用したらいいのに、「会費だけ集められている」と感じているところも多い。学区間の温度差も激しい。

○委員

事業所は「防災防犯上必要」と説明すると入ってくれる。

○委員

入っているが活動していないのが現状ではないか。

○委員

学生マンションに住む学生は、学生間でも話はせず、顔も合わせないのがほとんどのようだ。

○委員

リクルート社の住居アンケートによると、学生はコミュニティを求めているのは事実だ。

○委員

かつての下宿と学生マンションとでは、町内会への加入率の違いはあるか。

○委員

学生マンションは良くない。自分たちが学生の頃は地域活動をしている学生が多かった。ワンルームマンションの弊害だ。

○部会長

ワンルームという住まい方、暮らし方が増えている中、どうやって関わりを増やしていくかが問題だ。

○まちづくりアドバイザー

大学生への周囲からのアプローチは、1回生の頃が肝心だ。その時に、地域活動を含め様々な情報を教えないと関わっていけない。

○委員

情報はたくさんある。学区ごとに町内会マップのようなものがあれば良い。作成にはみんな協力してくれると思う。

○委員

どういう人が住んでいるか分かるので良いと思う。

○委員

現在民間会社が作っている物よりも、分かりやすい地図を作るといい。

■中山間地域について

○部会長

時間も迫ってきたが、北山三学区についての御意見はないか。

○委員

空き家が多い。現在いろいろな地域で田舎暮らしが提唱され、府内でも綾部市等でやっているが、綾部まで行かなくても北山三学区でやれば良い。情報発信が重要である。

○部会長

もう少し目を向けていける仕組みがないか。

○事務局

4大学は、三学区には研究のフィールドとしては入っていただいているが、地域としてはどうだろうか。

○副区長

別部会であった発言だが、自然を守るため、財産的価値、値打ちのあるものとして位置付けられないか。

○副区長

「琵琶湖は近畿の水がめ」との表現のように「北山は京都の〇〇」等の表現ができると良い。

○副区長

広く目に見えるかたちで三学区をアピールできる仕組みがあると良い。

○委員

山間地域において買い物の代行同行をしているが、高齢者には交通機関の問題がある。地域の活性化には高齢者の視点も必要だ。行政も協力してほしい。

■まとめ

○部会長

大学が関われることは増えてきた。安定的に関われる制度ができればよい。ハード・ソフト両面で「ここに住んで良かった」と思える町＝大人の町であり、そう思えることが成功なのではないか。学生がまちで楽しく暮らせる仕組みをどうつくるかが課題である。

<以上>